う

ヴァイ文字　英 Vai script

アフリカ地域の住民は，文字の作成という点では古来関心が薄く，活動的ではなかった．しかし，独自に作成された文字がまったくなかったわけではない．

西アフリカの西部には，バムン（Bamum，バムム）文字，ンシビディ（Nsibidi）文字，ヴァイ（Vai）文字，メンデ（Mende）文字が知られ，東部では，ソマリ（Somali）文字がある．それらの文字は，いずれも近年作られたもので，作成者，作成年代，そして作成の状況はだいたい判明している（詳細は，各項目参照）．

各種の文字がたどった象形字形から表音字形への変動を，いずれも短期間のうちに遂行した点で注目される文字群である．右から左への横書きもあれば，左から右へ横書きする文字も含まれる．

これらのうちヴァイ文字は，西アフリカで最も重要な文字であり，リベリア共和国の上ギニアの沿岸地域に住むヴァイ族がヴァイ語を表記するために考案したものである．左から右に書く音節文字．なお，ヴァイ語は，ニジェール・コンゴ語族のマンデ語派，北・西マンデ諸語，北マンデ語群に属する．

モムル・ドゥワル・ベケレ（Momulu Duwalu Bekele）という人が夢の中で暗示を得て 1833 年に作った文字といわれるが，ヴァイ文字の起源については，数種類の伝説があって，実際のところはよく分からない．おそらく，もとからあった表意字形をベケレが（数人のヴァイ人の協力を得て），表音的に使える文字として字形と書体を決めたものと考えられる．のち 1899 年に標準化されたらしい．主に，民間で通信と記録に使われている．この文字の文字表も作成されている（〈表〉）．

この文字の存在は，1848 年にアメリカの技術者フォブス（F. E. Forbes）によって発見されたが，翌年，アフリカ言語学者ケッレ（S. W. Koelle）がヴァイ族を訪れて調査し，その報告を公刊したことからよく知られるようになった．

ヴァイ語は声調言語であって，たとえば，bà「母」，bạ「羊」，ba「大きい」は声調で対立するが，2 音節単語の bala「場所」，basa「まぜる」の ba とも区別されることなく，同じ字形が使われるから，声調表示の符号はあるにはあるが，実際には無視されている．

2 音節単語を表記する表意字形は，頭音法によって，単語の初めの音節をその字形の音価とする．たとえば，sowo「馬」の字形は，音節 so の表記に使われる．

このように，もともとの表意字形が，表音節字形に改変されたために，のちの表音字形が本来何を象ったのかを探る試みがなされている．たとえば，so は＜*「馬」に，fu は「花」に，ku は「頭」に，me「これは」は 4 本の指をのばした形に遡れるという研究があるが，この試みは字形の一部にとどまり，また明確な決め手に欠ける．

本来，象形表意字形であった文字が，のちに整理され，表音節文字として運用されている点で，このヴァイ文字は文字発展史研究の上で重視されている．

[文字見本]　〈図〉を参照．

[参考文献]

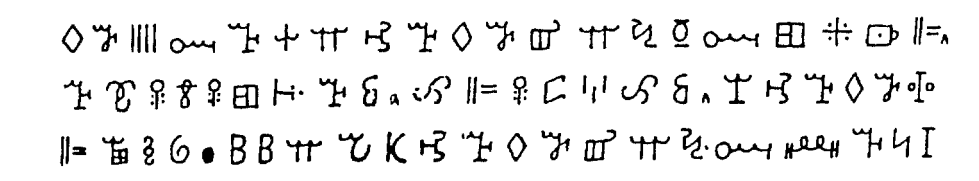
Cohen, Marcel (1958), *La grande invention de l'écriture et son évolution*, 3 vols. (C. Klincksieck, Paris)

Jensen, Hans (1970), *Sign, Symbol and Script* (George Allen and Unwin, London)

[参　照]　西アフリカの文字，アフリカの文字

（西田　龍雄）

〈図〉ヴァイ文字テキスト見本



出典：Jensen (1970) より．